

ウインタースポーツ
2月下旬または3月上旬にウインタースポーツのため、週間の休暇がある。多くの人がクロスカントリーやスキー、ノーボードをレジャーで、また湖も凍っているので、アイススケートに行くにも絶好の時期である。



イーナスタ（復活祭）

3月または4月にイーナスタ休暇として一週間の休みがある。春の兆しを楽しんだり、最後の雪を楽しむことができる。イーナスタは通常家族と過ごす休暇である。子供たちは長いスケートにエプロンとショールをまとうてイーナスタの「麗女」の出で立ちをし、近所の家を回って自分が描いた絵とキャンディーを交換してもらう。

夏休み
夏の始まりは6月半ばからで、学校は8週間の休みを迎える。自分のサマーハウスに行く人が多いが、キャンピングに参加する子供も多い。そして誰も泳ぐ。スウェーデンには何千もの湖が点在し、海岸線は2,700kmになる（セントリオールからヌイアミの距離に匹敵する）。

ミッドサマー（夏至祭）

本郷は夏至、つまり6月30日前後に最も高くなるが、スウェーデン人の多くは夏至の前夜を祝う。メイボールが木の葉や花で飾られ、子供も大人もその周りで踊る。伝統的な夏至祭の食事は2リンツの酢漬け、ミートボール、新しいがやを昼食に食べ、その後イチゴを食べる。本郷が沈まない白夜になるので、一晩おきていることも簡単だ。

秋

8月半ば、学校の秋学期が始まり、木々の葉は赤、黄色、オレンジに色づく。スウェーデンの国土の半分は森林であり、この時期にきのこやベリー狩りに行くことが多い。10月末または11月初頭に学校は一週間の休みがある。

9年間の義務教育
スウェーデンでは誰もが少なくとも9年間は学校教育を受けねばならない。学校教育は無償である。就学年齢は7歳（6歳になると就学前プログラムの後任意で高等学校へ進学できる。その後の任意で2学期制で、春学期と秋学期に分かれている。現在、成績の評価があるのは8年生時と9年生時である。将来的にはより低学年での成績評価も考えられる。6歳から12歳までの児童には始業前と放課後に児童保育サービスがある。

余暇の過ごし方
スウェーデンの子供たちは他の国の子供たちと同様に、音楽を聴いたり、友人と一緒に過ごしたりする。また、楽器を習ったり、スポーツをする、インターネットを使うなど、自分の興味のあることを積極的に行うことが勧められている。

インターネットとテレビ

スウェーデンの若年層はテレビを見る時間と同じくらい時間をインターネットに費やしている。12歳から15歳の子

王室
スウェーデンには王室があるが、国王は象徴的な統治権はもっていない。行政は政府が司る。国王カール16世グスタフはシルヴィア王妃を配偶者とし、皇太子ウイクトリア王女、カール・フィリップ王子、マデレーン王女の3人の子供がいる。

気候と天候
スウェーデンには8つの気候区分があり、春、夏、秋、冬の四季がある。気温は北部と南部で差がある。大西洋の温暖なメキシコ湾流の影響で、緯度が高い割には寒さは穏やかである。ストックホルムでは夏の平均気温は摂氏18度、冬の平均気温はマイナス1度である。春になると、北部では依然雪が多いが、南部では花が咲き始める。夏になると、北部が沈まず白夜となる一方、12月にはほぼ一日中太陽は昇らず暗いままとなる。

スウェーデンの若者に人気の本

「長くつ下のピット」「エーミール」やねの上のカールソンその他多数の主人公の生みの母である故スウェーデン・ソンドリンはスウェーデンの児童文学作家であり、その作品は最も広く読まれている。著作は世界90ヶ国語以上に翻訳され、多くは映画化または脚本化されている。スウェーノン・ソンドリンの「ベックリクス」や「フアンタジック・ヤコブソンとイーレン・オルソンの「スーネ」を主人公とする本は広く読まれており、スウェーデン・ウイグベード・スミルグの「ラッセとセーアのたんでいじむしおじり」又は19ヶ国語に翻訳されている。



スウェーデン文化交流協会発行「スウェーデン文化」15(4pp)2009年1月 フォトクレジットは2009年のこの「フアンタジック」のこの写真の参考。

www.sweden.se



空気を取り除く「エアロ」のフックを遊ぶ子供たち

スポーツ
若者にはスポーツが奨励され、13歳から15歳の子供の68%がスポーツクラブのメンバーになっている。サッカーは男女を問わず、最も人気のあるスポーツである。第二位は女子では乗馬、男子ではフットボール、その後は水泳、アイスホッケーと続く。

アウトドア、自然とのふれあい

スウェーデンは国土の割りに人口は少なく、人口密度は1 km²あたり22人強である（欧州連合の平均は1 km²あたり100人を超える）。公共のアウトセス権が保障されているので、誰でも郊外を散策することが可能である。しかし、自然・野生生物・他人への配慮を忘れてはならない。子供たちは、学校の日課として、天候にかかわらず、毎日外に出て、新鮮な

リンク集

www.lbrs.se – 児童オムブズマン (Children's Ombudsman)
www.friends.se – フレンズ (Friends)
www.bo.se – 児童オムブズマン (Children's Ombudsman)
www.savnetochidren.se – セーフ・ネット (Child Protection Network)
www.unicef.org – 国連児童基金 (United Nations Children's Fund)
www.stogsmilsliftelsen.org – 森のツルイ財団 (Skogsmiljö Foundation)
www.scouts.se – スウェーデンのスカウト (Scouts in Sweden)
www.naturansvarverket.se – スウェーデン環境保護庁 (Swedish Environmental Protection Agency)
www.tonitise.se – トム・ティンツ・エクス・プレント子供のための科学センター (Tom Tits Experiment, Science center for children)
www.royalcourt.se – スウェーデン王宮府公式サイト (Swedish royal family's official website)

著作権: スウェーデン文化交流協会によって www.sweden.se で複製されたものである。全てのコンテンツはスウェーデンの著作権法で保護されている。テキストは www.sweden.se から抽出することを許可し、非営利目的であれば、転記、転送、転載、放送などメディアでの使用をしてもよいが、写真やイラストの転記、転載は禁止。一般的な著作権と類似してはごちらを参照のこと。

スウェーデン文化交流協会 (SI) は海外におけるスウェーデンの関心を高め、信頼を構築することを目的とした公共機関である。SIは文化、教育、学術、ビジネスの分野での戦略的コミュニケーションと交流を通じて外国との協力と長期的な関係を築くことを目指している。

スウェーデンに関するさらに詳しい情報は
www.sweden.se、(スウェーデンの公式サイト)、あるいは各国のスウェーデン大使館または領事館、またスウェーデン文化交流協会まで、スウェーデン文化交流協会 (The Swedish Institute), Box 7434, SE-103 91 Stockholm, Sweden
電話: +46 8 453 78 00 メール: si@si.se
www.sis.se、www.swedenbookshop.com



スウェーデンの子供たち:

スウェーデンで過ごす子供時代

スウェーデンでは18歳未満の人口が200万人である。そのほとんどが無償教育、積極的な社会生活、自然に接すること、インターネットの自由な使用を当然のことと考えている。

スウェーデンの人口1900万のうちほぼ200万人が18歳未満である。スウェーデンの法律が、子供たちが十分に保護されていることを確保し、子供の権利を守つた。またさまざまな機関が子供たちの幸福のために尽力している。1979年にはスウェーデンは世界に先立って、子供を殴ったり、尻を平手打ちにすることを(体罰)を禁止し、体罰を刑事犯罪とした。

子供の権利を守り、子供の利益を追求するため、スウェーデン政府はオンブズマンを指名した。このオンブズマンは1989年に採択された国連「児童の権利に関する条約」に従い、スウェーデン社会で条約実施を義務づけられている。この条約は、多数の国々が合意した一連の権利を定める。スウェーデンには若者が支援を必要とするとき、相談できる機関が多くある。「社会における子供の権利」(BRIS)は電話のヘルプラインや電子メールでの相談などの支援サービスを提供している。「フレックス」は学校内を中心に、スポーツ活動など学校外でも、いじめを撲滅することを目的とした団体である。「セーサ・チルドレン」スウェーデン」も子供の権利を擁護するための団体であり、87,000人以上の会員がいる。

共働き

子供たちの80%は外で働く母親をもち、90%の子供の父親は働いている。スウェーデンでは親が子供とより多くの時間を家で過ごすことができるよう、政府からの補助金を受けられる。子供一人につき両親合わせて480日の有給育児休暇をとることができ、子供が8歳になるまでには消化しなければならぬ。休暇の多くは母親が取るが、家で子供と時間を過ごす父親も増えてきている。父親は育児休暇の20%を消化している。

家庭生活

ほとんど(90%)の子供が、最初は両親と生活し、夫婦は平均で一人ないし二人の子供をもうける。しかし、両親が離別することもめずらしくない。別離後、再婚する場合もあれば、新たなパートナーと同居することもある。18歳未満の子供の72%は其の両親と一緒に住んでいるが、

PRINTED IN SWEDEN. SKOJA BY ATLAS THORCKER AB

